
「愛知県文化施設活性化基本計画」のフォローアップ

～愛知芸術文化センターの建物管理及び芸術劇場の運営への
コンセッション方式の導入～

2024年11月

愛知県県民文化局文化部文化芸術課

愛知県文化施設活性化基本計画（2024年4月）

<目指すべき姿>

- 恵まれたアクセス、芸術劇場、県美術館の充実した施設機能等の強みを活用し、これまで築き上げてきた活動に加え、従来の枠にとらわれずに新たな視点で様々な文化芸術団体・産業セクターや近隣施設等と連携することにより、**ブランドイメージを向上させ、利用者層の拡大を図り、賑わいを創出する。**

<民間活力の活用の方向性>

利用料金の設定や設備投資等の**経営裁量**の点で、**指定管理よりコンセッションの方が柔軟かつ積極的な経営が可能であるが、劇場でのコンセッションの導入事例がないため、民間事業者の参画について懸念があると整理。**

- **建物管理**：建物の一体的な活性化の見込み、経営裁量最大化の観点で、「コンセッション」を軸に検討することが有効であるが、スキームの設計精度を民間事業者の見解を踏まえて上げなければ不落となるリスクがある。芸術劇場において採用する運営手法との一体性や、現状の空間にとらわれない新たな利用料金の設定エリア等が事前のヒアリングを通じて明確化した場合には、比較的長期の事業期間を前提に、「指定管理（公募型）」を導入することも考えられる。
- **劇場運営**：コンセッション、指定管理（公募型）が該当すると考えられるが、関係者ヒアリング、企業ヒアリングを踏まえると、事業者として参入可能かを詳細に検証し、スキームの設計精度を上げる必要がある。

民間活力導入詳細調査（2024年5月～）

- 2024年4月の「愛知県文化施設活性化基本計画」公表後、民間事業者の参画可能性や参画の条件等について、複数分野の**民間事業者20社程度にヒアリング**を実施した。
- 県として愛知芸術文化センターの<**目指すべき姿**>の実現と、民間事業者の参画可能性を両立しうるスキームの検討を進めた結果、以下のような結論が得られた。
 - 開館30年を経過した愛知芸術文化センターが、地域における文化芸術の拠点として**賑わいを創出して**いくためには、**相応の設備刷新やソフト事業への投資**が必要である。これらについて、**コンセッション方式を導入**することにより、**民間事業者による投資が期待できる**。
 - 設備刷新やソフト事業への投資といった民間活力を誘起する上で、愛知芸術文化センターの立地と、**コンセッション方式の特徴**である民間事業者の創意工夫に基づく**柔軟な価格戦略の導入**や**長期的な事業期間の設定**、**経営裁量**がインセンティブになる。
 - 特に、建物管理については、これまで**十分に活用されていなかったエリアに利用料金が設定**できることについて、様々なアイデアが寄せられ、**民間事業者の創意工夫による施設の活性化が期待**できる。



愛知芸術文化センターの建物管理及び芸術劇場の運営について、**コンセッション方式による運営がより効果的**であり、また、**コンセッション方式での民間事業者の参画の可能性は十分にある**と認められる。